

令和 4 年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属池田中学校

1 附属池田中学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属池田中学校

(2) 所在地

大阪府池田市緑丘1-5-1

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員432人(1学級36人)

(4) 幼児・児童・生徒数

432人

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 20人(うち, 臨時的雇用 2人), 非常勤講師 4人, 事務職員 6人(専任1人, 事務補佐員3人, 臨時用務員2人)

2 附属池田中学校の特徴

国際バカロレア認定校として国際教育に, SPS 認定校として安全教育に重点を置いている。

3 附属池田中学校の役割

1. 教員養成大学である大阪教育大学の研究校です。
2. 教員養成大学である大阪教育大学の教育実習校です。
3. 学び続ける教師のための, 研修・研究に奉仕する学校です。
4. 常に新しい教育理念を追究し, その実践を試みる, 研究開発学校です。
5. 一般生徒, 国際枠生徒(帰国生徒, 在日外国籍生徒), 学校災害特別研究生徒からなる混合学級で授業を行う学校です。

4 附属池田中学校の学校教育目標

自主・自律の精神の育成

知識 と感情と意志をバランスよく調和させることによって, 自分自身で考え, 価値判断でき, 責任ある行動がとれる人間の育成をめざす。

5 附属池田中学校の学校教育計画

- ①MYP認定校として, 学際的単元の実践, 評価と振り返りの流れを定着させ, 教員間で相互評価を行い, ICT機器の活用を含めた授業力の向上をめざす。
- ②SPS認定校として, 池田地区の児童・生徒の育成像に位置づけた安全教育の実践的研究を行う。
- ③ワーク・ライフ・バランスの推進。
- ④いじめ・体罰・アカハラ・セクハラ・マタハラ・パワハラ等, 人権に関する研修の充実と, 職場ハラスメントの防止の徹底。
- ⑤大学・大学院・附属学校池田地区, 他学校等の連携, 保護者・地域との連携。
- ⑥教育実習の充実。

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標		自主・自律の精神の育成(知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって、自分自身で考え、価値判断でき、責任ある行動がとれる人間の育成をめざす。)					
学校教育計画		1. MYP認定校として、学際的単元の実践、評価と振り返りの流れを定着させ、教員間で相互評価を行い、ICT機器の活用を含めた授業力の向上を目指す。					
本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価		学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策	
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)IB教育に関する授業力の向上および研修の充実	・Unit Plannerに基づく授業のブラッシュアップを図る。 ・2024年の評価期間に向け、IDU開発やPSP作成に関する会議、研修を充実させる。 ・IB授業に即した授業の構造化を図る。	年間5回の職員研修、同じく5回の教科会議をへて、Unit Plannerの書き方講習を行い、前年度までより共通化を図れた。また、研究会にIB関係者を指導助言として来ていただくことで、授業のブラッシュアップを行った。IDUの開発も各学年行い、PSPについても全教員で取組めた。	授業の構造化については、できていない教科と、できていない教科があるため、次年度は、PLT会議やIB委員会のメンバーが授業を参観に行き、各教科担と意見交換等をする必要がある。また、新しく求められる先生方への研修も必要となる。	B	教員、生徒、保護者等多方面にわたり努力を積み重ねてこられていると思います。無理のない範囲で継続いただけたらと思います。	A	年間計画の中にあらかじめ研修や会議等を位置づけることで、取組を計画的にする。無理のない範囲で継続いただける限り時間内に設定することで、新任の先生との取組共有を促進させる。
(2)ICTを活用した授業の推進および学習指導要領とIB教育の融合	・学習者用タブレットの有効活用を図り、事例を共有する。 ・学習指導要領が示す「3つの資質・能力」を高める国際バカロレア教育のあり方を追究する。	・学習者用タブレットについては、すべての教科、総合において、リサーチ、プリント配布、協働学習等に有効活用が図れている。 ・国際バカロレアにおける評価用ルーブリックの活用は図れているが、学習指導要領との関連性について、十分な検証はできていない。	タブレットの活用については、有用事例、逆に課題を明らかにし、取捨選択が必要がある。また、共有・引継ぎのための記録を残す。 「改めてめざす生徒像」それを踏まえた「3つの資質・能力」を確認することで、国際バカロレアの取組・評価を学習指導の資質能力に落とし込む手順を確立する必要がある。	B	学校評価アンケートより、生徒・保護者の高い満足度が伺えますが、視力の低下等の不安材料についての意見がありました。	A	めざす生徒像(それを踏まえた3つの資質・能力)を全体で確認し、検証を踏まえた課題を明らかにする。IB教育研究部で方法を提案し組織的に課題解決を図る。

学校教育目標		自主・自律の精神の育成(知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって、自分自身で考え、価値判断でき、責任ある行動がとれる人間の育成をめざす。)					
学校教育計画		2. SPS認定校として、他田地区の児童・生徒像に位置づけた安全教育の実践的研究を行う。					
本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価		学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策	
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)安全教育カリキュラムの確立	・生徒の主体性を重視したカリキュラムの推進 ・外部機関と連携した教育実践の充実	総合的な学習を中心としたIDUで1・2年生は安全について扱った。今年度の取り組みがベストかどうかはわからないが、IB教育に絡められる範囲での安全教育の形にはできていたと思う。	3年生の安全教育については3学期の総合で取組む予定だが、時間数としては非常に少ない。CPやIDUなどもありなかなか取組が難しいようである。全てを同じ比重で取組むことができない。また、殺の系統性があまりできていない。	B	1・2年でしっかり取組むことを重視し、その流れで3年ではあまり無理をしないほうがよいのではないかと感じます。	B	限られた時間の中で、SA、CP、IDUと関連を切りながら、重点的に取組む内容を明らかにする。
(2)安全管理の充実	・キャンパススクリーンの実施 ・訓練前後の振り返りの充実 ・安全点検の毎月実施	キャンパススクリーンを保護者、教員、生徒と協力して取組んでいる。振り返りも教員、生徒に実施し、次の取組に必ず生かしている。担当者を定めて今年度は引き継いだ。	安全点検の態勢が十分である。教師の出し分けもよく行われた。次年度は、生徒と教師の安全点検表を一本化し相互チェックができるようにし、抜けがないようになる。	B	キャンパススクリーンの計画については素晴らしいのですが、安全点検にゆがみがあることは心配です。	B	保護者、生徒等と一体化した学校安全の取組を今後も推進する。また、安全点検については、意識の醸成を図れるように周知を徹底する。
(3)SPS校としての取組の充実と国内外への発信	・校内の教員講習の実施(生徒・保護者) ・セミナー等での発表および視察の受け入れ ・ヒヤリハットシステムの運用、活用	救命講習は教職員1回、生徒2回実施した。できるだけ多くの教員が関わる形で実施することができた。	普及員を取得した教員が徐々に増えてきている。また、取得者が生徒に対して講習を行うというサイクルもできた。取得者を今後増やしていく必要がある。ヒヤリハットシステムの活用が保護者の提案でのみに止まっていたので、さまざまな教科と連携しけるとよい。	A	救急救命講習を生徒のみならずにも行っていることについて、素晴らしいと感じます。	A	救急救命講習については、次年度以降も拡充を図る。また、ヒヤリハットシステムについて、教科横断的な活用を図る。

学校教育目標		自主・自律の精神の育成(知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって、自分自身で考え、価値判断でき、責任ある行動がとれる人間の育成をめざす。)					
学校教育計画		3. ワーク・ライフ・バランスの推進					
本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価		学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策	
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)行事、会議、研修等の整理および効率化を図る。	・会議、研修を定時時間内に終了する。 ・超過勤務時間月80h超を0人。 ・超過勤務時間月80h超を超えた人数は、のべ18名であった(R4.4~12)。	・会議等の内容量が月によって差があり、運営委員会でも定時時間内に終わることができないこともあった。 ・超過勤務時間月80h超を超えた人数は、のべ18名であった(R4.4~12)。	・会議の目的を(情報共有)に絞り上げ、練り上げ(意思決定、周知)に時間を割くこと。また、アジェンダ、資料は事前に共有する。 ・働き方に対する意識づけ、効率的な仕組みを推進する。	C	他の学校と比べて、とてもよい方向に進んでいると思います。	B	会議の時間短縮を(1時間)を目途に(1)は次年度も継続させ、それに近づけよう。資料の事前配布、議題の整理等を促進する。

学校教育目標		自主・自律の精神の育成(知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって、自分自身で考え、価値判断でき、責任ある行動がとれる人間の育成をめざす。)					
学校教育計画		4. いじめ・体罰・アカハラ・セクハラ・マタハラ・バウハラ等、人権に関する研修の充実と、職場ハラスメントの防止の徹底					
本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価		学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策	
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)生徒との信頼関係を基にした面談による生徒指導、規範意識の向上と生活規律、学習規律の徹底、いじめや不登校への対応	・SCと打ち合わせ(週1)、特別支援委員会(月1)の実施。 ・保護室との連携、ケース会議の適切な運用を図る。 ・Q-1検査や生活アンケートの有用活用を図り、支援が必要な生徒の把握、状況の改善を図る。	・生徒の信頼や対質に際してSC-保健室・特別支援委員との連携を密にとることができていた。 ・今年度は支援を必要とする生徒や機関と連携をおこなう生徒が多く、ケース会議をおこない、管理職も含めて学校全体で対応することができた。 ・アンケートを活用しながら課題を抱えている生徒と接する時間を確保することができていた。またその情報を学校で共有できるように整備した。	・課題を抱える生徒に対して支援計画を立てることはできていたが、それを支援する体制の確保や学校全体としての指導の仕方が共有できていなかった。特に不登校傾向のある生徒に対してどのような手立てを取るのかも一度検討する必要がある。	B	学校評価アンケートのいじめ防止や先生への悩み相談についても、より満足度が上がることに期待をさせていきたいと思います。	A	不登校や不登校傾向等、課題のある生徒に対する支援計画を引き続き作成するとともに、その活用を積極し実施する。また、方向性や取組内容についての共有を図る。
(2)生徒-教師間、教師間においても人権を尊重した安全・安心な環境づくりを推進する。	・アンケート等により実態を把握するとともに、研修等により意識の醸成や改善を図る。	・アンケートの実施は昨年度と同様におこなったが研修を行うことはできていなかった。	・生徒支援の必要性に関する教員の意識は高いが、一方でどのような方法で支援を行うのかということや学校全体で取り組んでいく課題としての意識はまだまだ低い。ようには、情報を共有したり、事例に際してどのような対応をすればいいのかという研修を設けられるようにしたい。	B	個々の生徒の不登校への取組が、それを見ている全生徒へつながることを期待しています。	B	アンケート結果等を活用した、事例研究、またはケース会議を実施し、アセスメントとプログラミングのノウハウを高め、実践につなげる。

学校教育目標		自主・自律の精神の育成(知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって、自分自身で考え、価値判断でき、責任ある行動がとれる人間の育成をめざす。)					
学校教育計画		5. 大学・大学院・附属学校池田地区、他学校等の連携、保護者・地域との連携					
本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価		学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策	
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)大学、池田地区およびIB校等との連携を図る。	・次年度の共同研究に向けて、大学教員および小学校、高校との連携・協議を充実させる。 ・IB校への視察や受け入れを積極的に行い、ネットワークを広げる。	・共同研究については、本年度は連携・協力の位置づけで行ってきたが、次年度の方向性を決定できるまでには至っていない。 ・IB校の視察受け入れは、5件あり、研究会においてIB教育について実務・協働も深い全国的にネットワークを広げることができた。	・池田地区の将来的な方向性について、小・中・高および大学と一体的に議論し、短期的、中長期的に方向性を見極めたい組織、仕組みづくりに努める。 ・IB教育については、現在つながりのある学校と協働的な関係を築いていくために交流内容の焦点化を図る。	C	池田キャンパス内での小中高の連携強化についての意見交換をするような機会が必要かと思っています。	B	次年度から再開する小中高の共同研究については、池田地区のめざす児童生徒像を踏まえ共有しながら、包括的な連携の下、策定、実践を図る。
(2)保護者・地域との連携	・登校立ち当番等のPTA活動の活性化および行事等を通して保護者・地域との連携を図る。 ・警察、消防、市役所、地域自治会との連携を図る。	・本年度は感染予防を固めながらPTA行事の再開、対面(来校)の促進型の学校行事を実施した。 ・地域との連携については、社会情勢を鑑み今年度についても自粛した。	・PTA行事や学校行事について、効果と効率化を考え、オンラインと対面(来校)の併用を模索する。 ・地域との連携については、関係性が深まるよう、社会情勢を見ながら、従来型とオンライン等の併用を模索する。	B	登校立ち当番が継続されていることはとても素晴らしいと思っています。	A	次年度より例年通り行事を実施するが、保護者やキャンパス内、地域との連携も考慮しながら、内容については取捨選択し、効果と効率性をめざす。

学校教育目標		自主・自律の精神の育成(知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって、自分自身で考え、価値判断でき、責任ある行動がとれる人間の育成をめざす。)					
学校教育計画		6. 教育実習の充実					
本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価		学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策	
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)教育実習の充実	・教科指導や学級管理において、指導教員を中心に個々の教育実習生の課題を把握し、各教科・実習部・管理職・大学と協力体制をとる。	・指導案作成をはじめ、個々の教員の指導について、様々な充実した教育実習となった。また、教育実習生の課題に対しては、実習部、管理職、大学が連携を図り、迅速で丁寧な対応をとることができた。	・課題が生じた場合だけでなく、実習中は大学との緊密な連携を図る。また、大学に対して、教育実習生の事前指導のさらなる充実を依頼する。	B	教育実習生に対しては、教員の方々の負担、迅速、丁寧な指導が実習生の取組に反映し生徒に対しては、良好な授業等への参加につながったのではないかと感じます。	A	引き続き個々の教育実習生に有効な指導を行うとともに、大学教員との連携の充実を図る。